

第90回 消化器病学会近畿支部例会での口演(039)

2009年02月14日(土)

大阪国際会議場 第5会場(10F1009)

生検で印環細胞癌であった早期胃癌IIcの三年半の自然経過につて

(同プログラム・抄録集 80P)

牧病院 自由診療外来 牧 典彦

48歳女性。2005年夏胃痛にて近医受診され同9月9日、胃内視鏡検査の結果胃前庭部前壁にIIc病変を二箇所指摘され、生検の結果印環細胞癌が判明し手術を勧められたが拒否され当院の自由診療外来を受診。現在に至るまで胃内視鏡検査を定期的に施行しているが全く進行を認めず現在は三ヶ月に一回同外来にて経過観察中である。直近の胃内視鏡検査は2008年3月1日に施行され病変部は変化なく、生検で印環細胞癌の診断である。胃内視鏡検査時には送気にて胃内壁は伸展良好でいわゆるスキルス様の変化は認められなかった。印環細胞癌は粘膜下に広く浸潤し、いわゆるスキルス胃癌に進行する事があり、内視鏡所見が早期胃癌でも進行癌である事があり注意深い診断が求められる。2008年7月7日に胃透視検査にて胃前庭部の進展も良好であった。現在もご本人は手術を希望せず経過観察中である。経口抗癌剤も希望無く内服はない。因果関係は不明であるが福田式刺絡と生活指導を自由診療外来時で施行中である。